

## 京都大学附属図書館100年の歩み

(1897) 明治	30. 6.18	京都帝国大学創設。「附属図書館、同館長」の名称が明記。	
	31. 7.	附属図書館最初の建築として第一書庫完成。	
	32. 7.	閲覧室、事務室が竣工。	
	32.11. 6	法科大学助教授島 文次郎 初代附属図書館長に補せられる。	
	32.11.29	「京都帝国大学附属図書館規則および執行手続」を定める。	
	(1899)	32.12.11	開館（創立記念日）。学生に閲覧證を交付。
		33. 1. 5	島 文次郎、秋間琢磨、笹岡民次郎の諸氏が「関西文庫協会」の設立を發起。
		34.12. 4	閲覧室に電燈装置を完備し、夜間開館を実施（午前8時[夏期は7時]～午後9時）。
		35.11. 1	法科大学に分館を設置し、新聞、雑誌の閲覧を開始。
		36. 4.	第2書庫増設。
36. 4.12		京都帝国大学内に尊攘堂が竣工し、維新資料を保管。	
41. 6. 2		司書官及び司書の職制が置かれた。	
41.12. 1		「附属図書館商議会規程」制定。	
42. 2.17		第1回附属図書館商議会開催。	
43. 7.25		島 文次郎館長を免ぜられ、事務官石川 一を館長に補せられる。	
44.10. 1	石川 一館長を免ぜられ、文科大学教授新村 出館長に任命（在任26年間）。		
(1918) 大正	7. 3. 31	富士川本寄贈される。	
	11. 6.18	本館創立25周年記念式典。	
	13. 6.	第1次帝国大学附属図書館協議会（東京帝大）	
	14. 7.	鉄筋コンクリート4階建の第3書庫完成。	
(1930) 昭和	5. 4.	指定図書制度が確立され且実施される。	
	8.	法経学部新館西翼2階に第2閲覧室を開室。	
(1934)	9. 2.	本学蔵書100万冊突破。	
	11. 1.24	午前10時50分頃、第1閲覧室より出火、同室全焼。	
	11. 9.15	本部（時計台）大ホールに仮閲覧室開室。	
	11.10.19	文学部教授羽田 亨館長に任命。	
	14. 1.17	経済学部教授本庄榮治郎館長に任命。	
	17. 9. 1	文学部教授澤瀉久孝館長に任命。	
	19. 6.13	貴重文献の疎開を実施（嵯峨大覚寺宝蔵、府下南桑田郡保津村古川末造所有土蔵へ3,054冊を疎開）。	
	20. 8.14	第2回図書疎開（北桑田郡知井村、同郡神吉村）。	
	22. 5.31	文学部教授原随園館長に任命。	
	22.10.	京都帝国大学附属図書館は京都大学附属図書館と改称。	
	23. 2.	本館新築完成し、事務室及び閲覧室の移転を実施（旧館）。	
	23. 3. 9	京都図書館学校本館に開校（～24/3）。	
		国立国会図書館設置。	
	24. 6.30	本館内にクルーガー図書館開館（一般公開）5ヶ月間運用。	
	24.11. 8	文学部教授泉井久之助館長に任命。	
	24.11. 3	泉井館長図書館視察のためアメリカ出張（～26/3/3）。	
	26. 4. 7	第1回近畿地区国公立図書館協議会。	
26. 7.11	文部省主催図書館専門職員養成講習会本学で開催（～9/10）。		
28.	本館北翼に陳列室完成。		
29.10.11	第1回全国国立大学図書館長会議。		

(1956) 昭和	31. 7. 1	「附属図書館マイクロフィルム複写取扱内規」制定。
	32. 7.15	法学部教授田中周友館長に就任。
	32.12. 1	地磁気資料センター事務室開設（世界4ヶ所の内の1カ所）。
	33. 1.	「文献複写会」結成。
	34. 4.	アメリカ研究センター図書室開室（本館地階）。
	34.10. 3	岩猿事務長ALA主催「日本の図書館員のための図書館参考奉仕に関するアメリカセミナー」に参加のためアメリカ合衆国に海外出張。
	34.12. 9-10	本館創立60周年記念回顧展開催。
	34.12.11	同上 式典開催。
	36. 3.30	『京都大学附属図書館六十年史』刊行。
	36. 4. 1	附属図書館部課制実施（整理課と閲覧課を設置）。
(1961)	36.12.18	本学蔵書200万冊突破。
	37. 5. 1	田中館長海外出張（アメリカ他）。
	38. 7.15	田中周友館長退任、足利惇氏館長事務取扱。
(1964)	38. 7.25	経済学部教授堀江保蔵館長に就任。
	38.12.	開架閲覧室開設。
	39. 9.	館報『静情』創刊。
	39.12.11	「京都大学図書館改善特別委員会」発足。
	40. 6.23	HRAF（Human Relations Area Files）資料室開設、利用サービス開始。
	41. 4. 1	図書館改善特別委員会が図書館運営近代化策について行ってきた討議をまとめ「京都大学附属図書館報告書」を完成。その内容は学習図書館、総合図書館、研究図書館、保存図書館の機能分析を通じて附属図書館と各部局図書室の機能分担をハーバード大学のプライアント館長の主唱する「調整された分散主義」に近い形でまとめたものであった。
	41. 7.25	電子複写式による文献複写業務開始。
	42. 7.	工学部教授穴戸圭一館長に就任。
	43. 4. 6	本館大閲覧室に冷房装置設置。
	43. 6. 7	新聞閲覧室開設。
43. 7.26	全国国立大学図書館長会議を改組し、全国国立大学図書館協議会と改称。	
43.	第2閲覧室と雑誌室を開設。	
44. 5.15	学内全般の図書利用促進のため「学内図書相互利用書」の様式を統一。	
44.12.24	第1回日米大学図書館会議（東京）。	
45. 2.13	商議会上で、大学改革の中での「図書館問題を考えるための委員会」を設ける。第1回会議を開催。	
46. 3.	図書館職員による「大学図書館改革問題懇談会」スタート。	
(1971)	46. 4. 1	商議会上にて上記委員会の報告をまとめた。その内容は附属図書館のほかに医学図書館、社会科学図書館、人文科学図書館、農学図書館、宇治地区自然科学研究図書館などのほか部局単位に構成されるものも考慮した京都大学のライブラリー・システムの試案を提示し、さらに図書館業務の機械化についても提言している。
	46. 5.18	人文科学研究所教授平岡武夫館長に就任。業務機械化委員会設置。
	47.10.15	本学蔵書300万冊突破。
	48. 4. 1	第2回日米大学図書館会議（アメリカ合衆国）。
	49. 4. 1	法学部教授林 良平館長に就任。
	50. 1.20	総務課設置、3課となる。
	50. 5. 6	商議会上に「附属図書館運営改善に関する委員会」を設ける。
	50. 9.	「研究者の情報要求と利用に関する調査」5大学を対象に実施。
	50.10.28	商議員の構成で「学生用図書附属図書館選書委員会」が設けられる。附属図書館運営改善に関する委員会・第1小委員会で図書館近代化を答申し、そのために附属図書館の新嘗が必要であるとの見解が示された。
		第3回日米大学図書館会議（京都）。

(1976) 昭和	51. 3.	本館建物鉄筋コンクリート中性化試験実施。	
	52.10.	蔵書10万冊移動。	
	52.11.	附属図書館運営改善に関する委員会・第1小委員会『附属図書館の改築と改善に関する意見書』をまとめ答申。	
	53. 1.	附属図書館運営改善に関する委員会・第2小委員会『附属図書館の管理・運営に関する意見書』をまとめ答申。	
	53. 5. 6	商議会に機械化等に関する委員会設置。	
	53. 7. 4	商議会に施設サービス委員会設置。	
	53. 7.	商議会に建築委員会設置。	
	53.10.	開館時間延長（午後7時から午後8時へ）。	
	54.12.11	附属図書館創立80周年記念式典（展示会、図書目録の機械化実験デモ）。	
	55. 1.29	学術審議会『今後における学術情報システムの在り方について』答申。	
	55. 4. 1	学術情報掛新設。 開館時間延長（午後9時まで）。	
	55.10.	「学術情報問題調査検討委員会」（林委員長）中間答申。	
	56.	国立国会図書館 Japan MARC頒布開始。	
	56. 1.	附属図書館新営に関するWG発足。	
	56. 3.27	商議会 附属図書館新営計画決定、新営に当たっての全学的図書収蔵計画決定。	
	56.12.26	附属図書館新営着工。	
	(1982)	57. 1.26	本学蔵書400万冊突破。
		57. 4. 1	工学部教授高村仁一館長に就任。
		57. 7.19	図書館業務機械化準備作業班設置要項（館長裁定）。
		58. 1. 1	附属図書館に国立国会図書館分類表（NDLC）採用。
58. 4. 1		閲覧課相互協力掛新設。	
58.10.20		附属図書館新館竣工（建築面積 2,477.86㎡、延床面積 14,011.25㎡）、全学校費からの予算配分を得る。	
59. 4. 1		工学部教授西原 宏館長に就任。 書庫掛、学術資料掛と名称変更。	
59. 4. 9		新館開館、小型電算機（V830）による閲覧システム導入、工学部化学系雑誌の集中配置（工学部図書掛4階へ）。	
59.12.24		附属図書館調査研究室設置。	
60. 1.		バックナンバーセンター利用開始（約11万冊 6,400title）。	
60. 1.		京都大学規程および京都大学附属図書館図書館商議会規程全面改正。文献情報センター所管学術情報システムに参加、FACOM M-340 および端末27台導入（内6台は部局）。	
60. 4.		整理課学術情報掛および閲覧課参考調査掛を設置。	
60. 6.		東京大学文献情報センターと接続開始。	
60. 9. 9		学内図書館（室）文献相互利用制度発足。	
60.11.		附属図書館オンライン情報検索サービス（JOIS、Dialog）開始。	
61. 4. 1		文学部教授西田龍雄館長就任。 AVブース室利用開始。	
62. 3.20		附属図書館における学外者の利用に関する考え方（骨子）制定。	
62. 6. 2		理工学系外国雑誌センター館の指定を受ける（484title）。	
63. 2.29	『京都大学蔵大惣本目録』（第一分冊）刊行（H.2年3月3分冊完結）。		
63. 3.	『新入生のためのLibrary Guide』発行、以後毎年発行。		
63. 4. 8	課・掛名称変更、情報管理課（旧名整理課）情報サービス課（旧名閲覧課）雑誌・特殊資料掛（旧名学術資料掛）。		
63. 9. 1	オンライン目録検索（OPAC）運用開始。		
64. 7. 1	「近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡委員会」設置。		
64. 7. 6	英文利用案内の作成。		
(1990) 平成	2. 1.	附属図書館電子計算機更新（FACOM M-360）端末108台。利用者端末6台に。	

(1990) 平成	2. 2.19	電算化にともなう目録講習会。	
	2. 3.26	「京都大学における図書館資料の不用決定および廃棄に関する取扱要領」制定。	
	2. 4.	学内LAN「KUINS」運用開始。	
	2. 8.	CD-ROMによる検索開始。	
	2.10.	OPAC/TSS運用開始。	
	3. 3. 3	電子ファイリングシステム(EFS)宇治地区間と運用開始。	
	3. 3.	貴重書指定等審査委員会(第1回)開催。6点を新たに指定。	
	(1991)	3. 7.31	附属図書館報『静情』通巻100号(Vol.28,no.1)
		3. 9.18	本学の蔵書500万冊突破。
		3.10.	『鈴鹿本今昔物語集』寄贈される。
4. 4. 1		文学部教授朝尾直弘館長に就任。NACISIS-ILLシステム利用のサービス開始。	
4. 5. 1		官公庁完全週休2日制 土曜開館(10:00-17:00)	
4.10. 6		第5回日米大学図書館会議(東京 ~10/9)	
4.10.12		日米ワンデイセミナー開催(京都外国語大学)	
5.10. 4		放送大学学生に利用証交付。	
6. 1.		附属図書館電算機更新(M-1400/20)稼働開始。	
6. 9.26		「吉田松陰とその同志」展で電子図書館実験システム(Ariadne)による電子展示。	
7. 1.17	阪神・淡路大震災発生 神戸地区を中心に被害甚大。		
7. 1.	神戸商船大学附属図書館(1/26, 3/22-27)、神戸大学附属図書館(2/13-15)復旧支援。		
7. 3. 6	『京都大学附属図書館の将来構想(中間まとめ)』商議会へ提案。		
7. 4. 1	工学部教授長尾 真館長に就任。		
7. 4.18	附属図書館商議会専門委員会開催(第1回)		
7. 5.	日曜開館スタート(10:00-17:00) CD-ROMサーバ・ネットワーク検索システム運用開始。		
8. 1.	インターネットホームページ開設。		
8. 4. 1	附属図書館研究開発室設置(学内措置)		
8. 4. 5	館内リニューアル(入退館機の更新、新聞雑誌閲覧コナの新設)		
8. 6.	『鈴鹿本今昔物語集』国宝に指定。		
8. 6.26	次期システム全学検討会議(於AVホール)		
9. 4. 1	工学研究科教授万波通彦館長に就任。 電子情報掛新設。和書目録情報掛と洋書目録情報掛は目録掛となる。		
9. 6.	商議会に電子図書館専門委員会設置。		
10. 1. 6	電子図書館システム稼働(電子図書館化推進経費予算化)		
10. 3.	総合情報メディアセンター端末を附属図書館内に配置。		
10. 3. 2	電子図書館システム披露式開催。		
10. 4. 1	経済学研究科教授菊池光造館長に就任。 電子図書館システム本格稼働。		
10. 4.13	全学共通科目「情報探索入門」(提供部局および附属図書館)開始。		
(1999)	11. 7.12	全学図書館・室対象に利用者アンケート調査実施(~7/23)	
	11.10.22	本学OPACデータ入力100万冊突破	
	11.11.29	附属図書館創立100周年記念式典(公開展示会、記念講演会)	